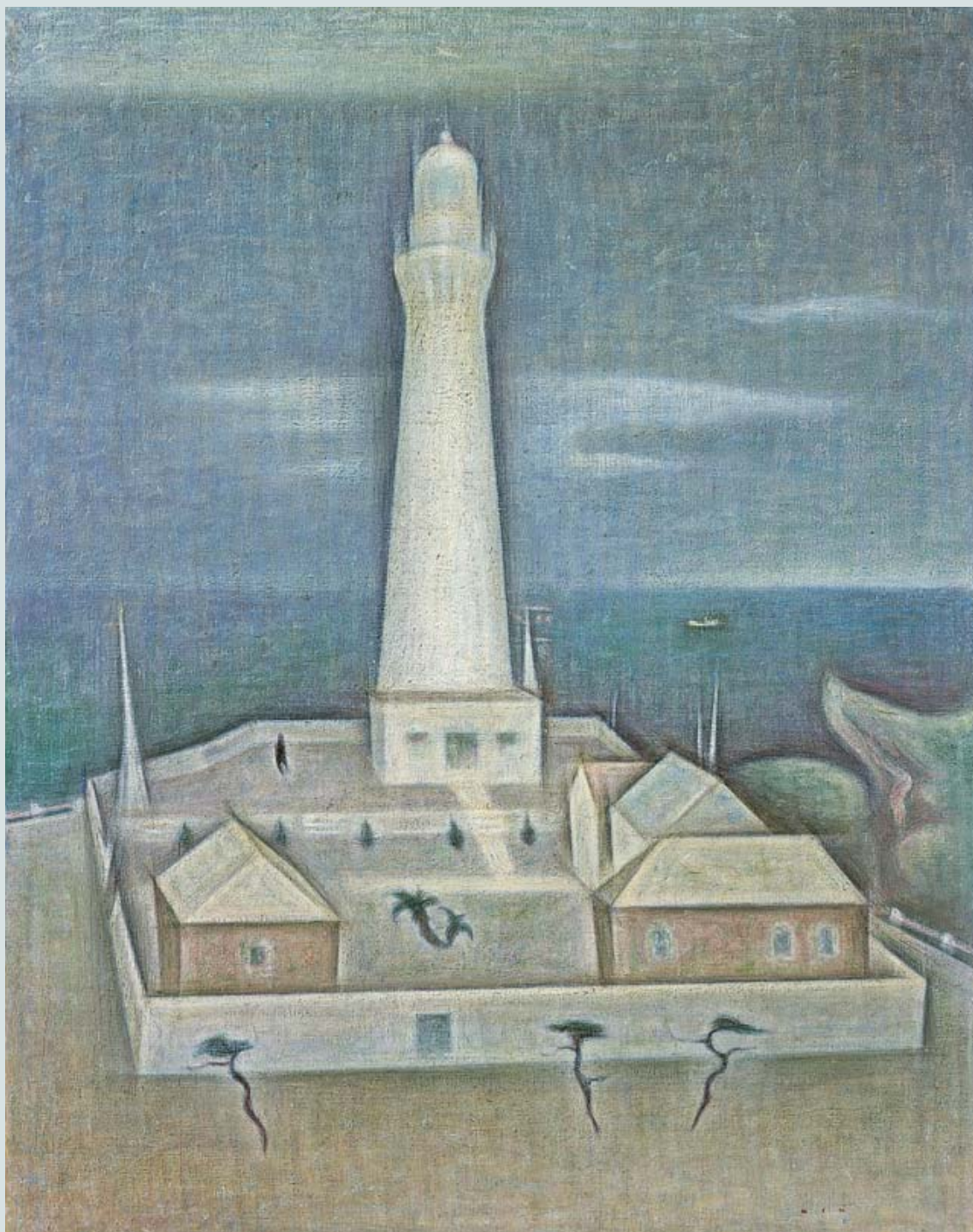


守り、創り、育てよう  
ふるさと島根の景観

# 第11回 しまね景観賞



島 根 県



# はじめに

---



島根県知事 **澄田信義**

私たちのふるさと島根は、美しい自然の景観、人々の営みから創り出された農山漁村の景観、先人の知恵が活かされた歴史的な景観など、それぞれの地域で特色ある景観が形造られています。

優れた景観を将来にわたって保全するとともに、新たな魅力ある景観を創り、育てることを目的として、平成3年に「ふるさと島根の景観づくり条例」を制定し、様々な取組みを行ってきました。

このたび第11回を迎える「しまね景観賞」は、魅力ある島根の景観づくりに貢献している建造物等を表彰し、快適で文化の薫り高いふるさと島根の景観を形成していくことを目的として実施してきました。今回を含め百十余件が受賞し、私たちの周りにも、ゆとりや豊かさを実感できる魅力ある景観が数多く形成され、多くの県民の皆様の高い関心を寄せていただいております。

今回は、大賞の「高瀬川周辺の整備事業」をはじめ、10件の建物や活動などを表彰することとしました。

受賞されました皆様に、心からお祝いを申し上げますとともに、選定に当たり御尽力いただきました「しまね景観賞審査委員」の皆様や、応募をいただいた方々に、厚くお礼申し上げます。

今後とも、本県の魅力ある景観の保全・創造への一助となる取組みを進めてまいりたいと考えておりますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

平成16年1月

# 選考総評

---



しまね景観賞審査委員会  
委員長 **藤岡大拙**

今回、「しまね景観賞」の応募物件数は、景観賞創設以来最高の124件であった。これも、この賞が県民の方々に広く認められつつあることの証であり、大変喜ばしいことと考える。

選考に当たっては、書類審査による第1次審査において、まず31物件を選定し、第2次審査において、ビデオによる事前審査と最終審査会とを行い、次の10件の建築物や活動等を選定した。

大賞には、『高瀬川周辺の整備事業』が選ばれた。これは、出雲市が「出雲市うるおい・緑・景観まちづくり整備計画」に基づき、平成9年度から平成14年度にわたって、各種事業を取り入れながら継続的に整備を行ったものであり、高瀬川の情景を楽しみながら散策できる空間づくり、水に親しめる親水護岸等の整備等を通じ、回遊性の充実と景観に配慮した街並み空間づくりが完成した点が高く評価された。

優秀賞は3件である。「まち・みどり部門」から選ばれた『城山稲荷参道前の通り』は、昔からの文化や自然と一体となった古い街並みの佇まいが、「土木施設」から選ばれた『ハーモニータウン汐彩の親水護岸・遊歩道・植樹帯』は、逆に、新しく造成された住宅団地ながら、回りの景観との調和が図られつつ整備されている点が評価された。「公共建築物部門」からは、出雲平野の田園風景にうまくとけ込んでいる『斐川町立図書館』が選ばれた。

奨励賞は6件である。「土木施設部門」からは、自然とのバランスに配慮した『潮谷川砂防工事』が、「公共建築物部門」からは、周囲の山並みとの調和を図るため、木の温もりを活かした施設として建設された『中山間地域研究センター』が選ばれた。「民間建築物部門」からは、一畑電鉄の二つの駅、『一畑電鉄大津町駅』『松江しんじ湖温泉駅』が選ばれた。これは、同じ電車の駅でありながら、かたや木造の牧歌的な駅舎、かたやガラス張りの都会風の駅舎と、異なるコンセプトを持って建てられている点が、評価されたものである。「個人住宅部門」からは、日本の原風景を思い起こさせる『多根の茅葺き屋根の民家』が、「工作物・その他部門」からは、地域住民の知恵と工夫が評価された『美保関の屋号由来板』が、それぞれ選ばれた。

今後とも、「しまね景観賞」を一つの拠り所として、多くの県民、事業者の皆さんがよりよい景観づくりに積極的に取り組まれることを期待してやまない。



# 大賞

## 高瀬川周辺の整備事業

所在地	設計者	施工者	概要
出雲市今市町	(株)古川コンサルタント	(株)内藤組	街路 L=300±□, W=18±□
事業主体	(株)みずほ設計	(株)大東亜建設	親水護岸 L=15±□, 2ヵ所
出雲市	中電技術コンサルタント(株)	山陰冷暖(株)	八雲橋 W=8.5±□
		(有)川跡電気設備	八雲公園 面積624±□
		緑化建設興業(有)	整備期間 平成9年度～平成14年度



出雲市駅から北に伸びる「くにびき中央通り」を東西に横切って、高瀬川が浅い底を見せながら流れている。川の北側には、ショッピングセンターがあり、その南側一帯が「三京さくら通り」として整備されている。

「さくら通り」の名のとおり、やがて並木となるはずの桜の木々が、対岸の柳の木々に対峙して植えられている。季節ともなればさぞ美しい眺めになるだろう。白木が美しい八雲神社を中心に整備された「八雲公園」は、小さな朱塗りの「八雲橋」が気の効いたアクセントになっており、広々とした清々しい空間は、とても気持ちがいい。境内は、普段は静かな憩いの空間だが、時には神楽、盆踊り、燈籠流しなどの催しで大いに賑わう。また水辺のウッドデッキと椅子の組み合わせも、ステキな空間を演出している。

軒の低い家並みや商店、そして喫茶店。若者達の賑やかな語らいが聞こえてくるようだ。この通りの創りだす空間は、美しく、楽しく、そして何より魅力的で、いつ行っても気分がよい。この景観の中で、高瀬川と柳の持つ大きな力を改めて実感する。  
(山谷裕子)



# まち・みどり部門 優秀賞

## 城山稲荷参道前の通り

### 所在地

松江市殿町

### 事業主体

松江市  
殿町城山区自治会

### 概要

延長 400m□  
幅員 5m□  
道路照明灯 13基



松江城二の丸から緩やかな坂道を馬洗池へと下ると、「城内越し」と呼ばれていた細い舗装された坂道に出る。道を上っていくと、護国神社、松江藩ゆかりの城山稲荷へと続く。

このあたりは昔「木苗方」と呼ぶ木苗を取り扱う役所があったところと聞く。

馬洗池から続くこの坂道は、車も通るが、主に観光客や地域の住民がそぞろ歩く道で、数軒の住宅が連なって静かな佇まいを持つ街並みが形成されている。

この街並みでは、個人の住宅ではありながらも古くからの美を残し、杉皮葺きの門屋根や島石の石段、道路との境界には生垣や、さりげなく竹垣を配するなど、緑深い静かな周囲の環境に配慮した何気ない、自然で美しい佇まいを見ることが出来る。

この生垣の緑や景観を保存していくのは並大抵のことではない。昔からの松江の生活のあり方や伝統・文化をしっかりと守り伝えていこうという、住まう人たちの凜とした意志を感じさせる。ここには昔からの文化や自然と一体となった、出雲弁で言う「おんぼら」とゆったりとした時の流れがある。そこに住まう人たちは、歴史と共にある松江の風を、私たちの身近なところでさりげなく表現させてみせているのである。（小草伸春）



# 土木施設部門 優秀賞

## ハーモニータウン汐彩の親水護岸・遊歩道・植樹帯

### 所在地

安来市汐手が丘

### 事業主体

国土交通省中国地方整備局出雲河川事務所  
安来市  
島根県土地開発公社

### 設計者

(株)シマダ技術コンサルタント

### 施工者

平井建設(株)  
りんかい日産建設(株)島根営業所

### 概要

親水護岸 L=940m<sup>2</sup> 面積2,700m<sup>2</sup>  
植樹帯 平成12年度植樹(県のツリーバンク事業利用)



中海の入り江に滑らかな曲線を描く海岸線に沿って自然石を使った親水護岸と遊歩道が整備され、さらに、それと連続して多くの樹種を配した植樹帯が設けられ、心地よい空間が創造された。旧建設省が整備した中海の親水護岸と遊歩道に附随して、島根県土地開発公社と安来市が島根県のツリーバンク事業を活用して植樹帯を整備したものである。異なる整備主体が行った事業であるが、うまく景観の調和が図られている点で評価したい。

一方、この植樹帯から道路を隔てた内側にハーモニータウン汐彩と名付けられた住宅団地が造成された。いま多くの住宅が建ちつつあるが、この住宅団地では景観的配慮を地区計画で定めている点は素晴らしい。ただ、この植樹帯と住宅地が道路で分断されてしまったが、造成された一区画分の面積が大きいだけに、もとの地形に沿って、植樹帯と連続的に住宅地の区画が配置されていたなら、この植樹帯はさらに生きてきたことだろう。少し残念である。将来、地区計画を通して、住宅団地全体に緑豊かでオープンな外部景観が形成され、この遊歩道と植樹帯からの緑が住宅地へと続き、豊かなコミュニティが育まれることを期待したい。(藤居良夫)



# 土木施設部門 奨励賞

## うしおだに 潮谷川砂防工事

### 所在地

邑智郡大和村大字長藤地内

### 事業主体

島根県川本土木建築事務所  
大和村

### 設計者

イズテック(株)

### 施工者

漆谷建設(株)

### 概要

砂防堰堤工 2基  
自然石積護岸工 397㎡  
橋梁工 4橋  
完成年月 平成15年3月



緑豊かな山々とそれらに囲まれてゆったりと流れる江の川が、心安らぐ景色を見せてくれる邑智郡大和村。「潮谷川砂防工事」は、その北部に位置する長藤地区で、平成4年度から14年度にかけて進められてきた事業である。対象は、江の川に注ぎ込む潮谷川の下流域。近くには国道とJR三江線が通り、デイサービスセンターや潮温泉の施設も隣接しており、村内外の多様な人々の目に触れる場所でもある。

現地を訪ねると、まず、茶褐色の自然石による石積護岸が目を引き。流路にも同じ石が使われており、それぞれに不定形な石の並びが自然石ならではの風合いを感じさせる。流路には段差が設けられているが、水流を扶む格好に置かれた左右の石の長さが一段毎に変えられていて、水の動きにリズムを生み出すものとなっている。また、中流部には河川プール（遊砂地）が作られているが、数個の岩が水面から顔を覗かせるように配されているのが景観上のアクセントになっている。水辺に降りる自然石の階段も付けられていて、夏には水遊びを楽しむ子供たちで賑わったという。

初期に整備された上流部の堰堤の辺りは、既にかかなり自然に戻っている風情がある。水路沿いには遊歩道や広場、東屋も設けられており、今後も程よい自然化とともに継続的な環境整備がなされれば、人々に親しまれる水辺空間としての魅力をいっそう増していくことであろう。（八田典子）



# 公共建築物部門 優秀賞

## 斐川町立図書館

所在地	設計者	施工者	概要
箕川郡斐川町大字直江町	(有)藤原建築アトリエ	(株)フクダ (株)ヒカワ工業 (有)高橋造園	RC造一部鉄骨造 地上2階建 建築面積 2,859.5㎡ 延床面積 2,958.36㎡ 完成年月 平成15年7月
事業主体 斐川町			



斐伊川によって、豊かに育まれた穀倉地帯として、又、築地松を持つ民家が点在する独特な散居景観と銅剣等が出土した荒神谷遺跡に代表される文化歴史遺産等、自然と歴史ロマンにあふれる斐川町のほぼ中央に位置し、南は仏教山、北は北山連峰を仰ぐ、広い田園風景の中にある。

敷地の周りには箕川平野の季節風に対しての築地松を意識した植栽など、多くの樹木を配し、建物全体が自然に周辺の景観に馴染むよう考慮されている。

前面道路から施設へは広い緑帯を設け、道行く人々の視線が建物と背景の北山等々と一体化するよう配慮されていると感じた。又、建物の南側等の庇ラインは、田園の広い空間に対し突出感を押える効果としての役割をになっている。

田園風景に一般的には馴染まない感のする、コンクリート打放しとレンガの構成は、直線と曲線の取合せと植栽とのバランスの中で納まっている。施設入口に向かってのアプローチは、円形の吹抜けからの光と影が施設の内外に雰囲気にあたえている。

一方、夜間の景観にも配慮がなされ、植木を通してのライトアップは田園風景の中にうまく溶け込んでおり、昼間とは異なった景観を見ることが出来る。

全般に見て、古風な田園風景に対して、様々な配慮がなされている点、評価できる建物と言える。  
(安藤隼人)



# 公共建築物部門 奨励賞

## 中山間地域研究センター

<b>所在地</b> 飯石郡赤来町上来島	<b>設計者</b> (株)久米設計 広島事務所	<b>施工者</b> 梅木建設(株) (株)都間土建 (株)後藤建設 (株)田部	<b>概要</b> 木造(大断面集成材)、RC混合造 地上2階建 建築面積 3,686.86㎡ 延床面積 4,926.29㎡ 完成年月 平成14年3月
<b>事業主体</b> 中山間地域研究センター			



琴引山の端正な山容を左手に国道から大きく左に道を取る。周囲の山並に優しく包み込まれてたたずむこの施設は、柔らかく、しかし自らの使命を静かに宣言しているかのように訪れる人を迎えてくれる。

環境の世紀、21世紀。生命を育む地域として中山間地域を位置づけ、その再生を使命としてこの施設は建設された。そのため、管理棟、研修棟、研究棟の本館棟のほか、林業試験林、放牧地など36ヘクタールにも及ぶ規模となっている。

建物の設計理念は、「木の温もりを活かす」、「機能性」、「親しみやすさ」、「環境や景観への配慮」及び「自然地形を活かした施設の配慮」とされ、全体が高原地域の豊かな自然や周囲の山並みとの調和を図るため、地形に沿ってゆるやかな半円形の曲線をベースに配置されている。

この建物で特筆すべきは、木の温もりを活かした施設とするため、隠岐島を始め県内各地で生育したスギ材を集め、構造用の集成材、内装・外装の仕上げや建具などあらゆる箇所に用いていることであろう。

さらに、銅板の屋根は、色彩をぎりぎりまで押さえたグレーを基調としており、コンクリートと御影石からなる無機質な外壁と相まって、周囲の山々を背景に、一幅の上質な水墨画を眺めているかのような印象さえ与えてくれる。

この施設が、中山間地域の総合的な研究や支援活動の拠点として、将来にわたって、地域にしっかりと根付いた存在となることを願ってやまない。(錦織 勝)



# 民間建築物部門 奨励賞

## 一畑電鉄大津町駅

<b>所在地</b> 出雲市大津町	<b>設計者</b> (有)奥原設計事務所	<b>概要</b> RC造、一部木造 平屋建 建築面積 208㎡ 延床面積 174.6㎡ 完成年月 平成14年12月
<b>事業主体</b> 一畑電気鉄道株式会社	<b>施工者</b> 一畑工業㈱	



一畑電鉄が大津の町並みを南から北に横切る、その町の北にある。周囲には工場、資材置場、家屋群、線路をまたぐ高架橋の国道9号などがあり、景観はあまり良好ではない。

駅舎の柱はコンクリートの打ちはなし、屋根はゆるやかな曲線を描き、出雲の民家にあるような、煙出をもうけた二重屋根の構造、屋根の色は銀灰色。周囲から突出しているわけではなく、むしろ目立たないが、広くのびやかで、スマートな感じがあたりの景観に一輪の花をそえている。  
(藤岡大拙)

# 民間建築物部門 奨励賞

## 松江しんじ湖温泉駅

### 所在地

松江市中原町

### 事業主体

一畑電気鉄道株式会社

### 設計者

田中正夫建築設計事務所

### 施工者

一畑工業(株)

### 概要

鉄骨造 一部2階建  
建築面積 326.21㎡  
延床面積 216㎡  
完成年月 平成13年12月



なんともちっぽけなターミナル駅である。単線だから世界最小の終着駅かもしれない。でも、とても上品な駅だ。薄い軽快な屋根、細い柱、透明な箱、一見駅には見えない。待合室は洒落たカフェの趣がある。天井が高くノビノビしているのいい。継ぎ目がないDPG（ドット・ポインティッド・ガラス）の使用にしても、鉄骨の収まりにしても、とにかく、ディテールが綺麗である。かつての鄙びた駅の華麗なる変身である。と思うと、駅前には何やらほのぼのとしたお湯かけ地蔵があり、足湯に足を浸す人々がいて、宍道湖の北岸をゴトゴト走る一畑電車ののどかな雰囲気も漂っている。どことなく気取った都会風の駅とのんびりとした足湯とお湯かけ地蔵、絶妙なアンバランスというべきか。

駅は、それぞれの場所で、それぞれ別の貌を持つべきではないか。一畑電車の試みは楽しい。新幹線の駅のようにどこでも同じじゃあ困る。足湯のある松江しんじ湖温泉駅は、どこにもないユニークな終着駅である。（布野修司）



# 個人住宅部門 奨励賞

## 多根の茅葺き屋根の民家

### 所在地

飯石郡掛合町多根

### 事業主体

白築茂輝

### 概要

木造 平屋建

建築面積 154.20㎡

15年周期で屋根の葺き替え



三刀屋川の清流を前にし、後に山を背負って建っている。赤瓦の「箱棟」と「しころ」、茅葺きの屋根は、典型的な在村地主の家屋である。瓦は石見瓦で、その沈んだ色は周囲によく調和している。以前にはどこでも見られる農村風景であるが、現在ではほとんど消えうせた。

それだけに、この民家は戦前の姿をのこす貴重な存在である。茅を調達することは、現在ではかなり困難であるが、当主は茅葺きにこだわっている。その頑固さが心地よい。  
(藤岡大拙)



# 工作物・その他部門 奨励賞

## 美保関の屋号由来板

### 所在地

美保関町美保関青石畳通り

### 事業主体

美保関町商工会

### 概要

設置 25軒  
設置年月 平成14年3月



美保神社から仏谷寺へと続く「青石畳通り」では、中世以降の賑わいを持った歴史的景観を復活しようと、平成11年、地域住民による“美しい環境づくりに関する協定”が結ばれている。その具体的な事業の中には、この屋号由来板作成の他、誘導サイン設置、電柱の茶系化、醤油樽プランター設置などがある。小さいながら景観要素の一つ一つを丁寧に考え、まち並みに調和し、通りにまとまりを生み出すものと住民が知恵を働かしているのが判る。

この屋号由来板は地域の歴史を掘り起こして、自分の町への誇りと愛着を育む方法として素晴らしいだけでなく、まち並みに一つのリズムを生み出して、景観づくりに大いに役立っていると言える。歩きながら屋号を読むという楽しみが生まれ、地元民のみならず訪れる人々にも魅力的なまち並みとなっている。この度は第8回景観賞に次ぐ2度目の受賞である。

景観は長いスパンで考えねばならず、少しずつの工夫の積み重ねで良くなっていくものであるが、この「青石畳通り」はその意味ではお手本のようなものである。今後の課題は「魅力的になった通りをどう活かすのか」であろう。そこにも地域の方の知恵を集めて、多くの人をもっと訪れたいような、活動の工夫が欲しいのである。  
(田村美幸)



# 第11回 しまね景観賞

## 大賞

- ① 高瀬川周辺の整備事業  
事業主体／出雲市

## まち・みどり部門 優秀賞

- ② 城山稲荷参道前の通り  
事業主体／松江市  
殿町城山区自治会

## 土木施設部門 優秀賞

- ③ ハーモニータウン汐彩の親水護岸・遊歩道・植樹帯  
事業主体／国土交通省中国地方整備局出雲河川事務所  
安来市  
島根県土地開発公社

## 土木施設部門 奨励賞

- ④ 潮谷川砂防工事  
事業主体／川本土木建築事務所  
大和村

## 公共建築物部門 優秀賞

- ⑤ 斐川町立図書館  
事業主体／斐川町

## 公共建築物部門 奨励賞

- ⑥ 中山間地域研究センター  
事業主体／中山間地域研究センター

## 民間建築物部門 奨励賞

- ⑦ 一畑電鉄大津町駅  
事業主体／一畑電気鉄道(株)

## 民間建築物部門 奨励賞

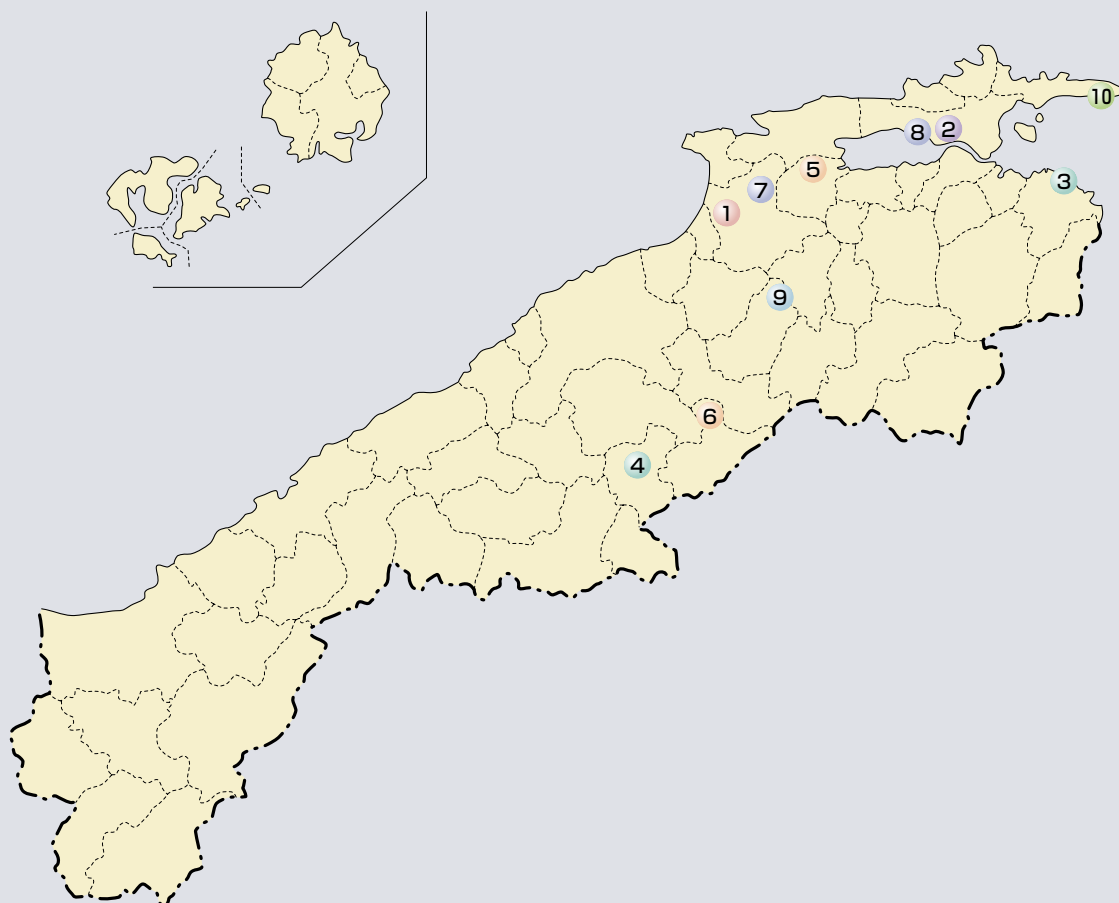
- ⑧ 松江しんじ湖温泉駅  
事業主体／一畑電気鉄道(株)

## 個人住宅部門 奨励賞

- ⑨ 多根の茅葺き屋根の民家  
事業主体／白築茂輝

## 工作物・その他部門 奨励賞

- ⑩ 美保関の屋号由来板  
事業主体／美保関町商工会



平成15年度

## 第11回 しまね景観賞



しまね景観賞表彰銘板

### 審査委員

- 安藤 隼人 島根県建築士会会長  
小草 伸春 島根県建築士事務所協会会長  
田村 美幸 公共の色彩を考える会会長  
八田 典子 島根県立大学助教授  
藤居 良夫 信州大学工学部助教授  
○藤岡 大拙 島根女子短期大学学長  
布野 修司 京都大学大学院工学研究科助教授  
山谷 裕子 画家  
錦織 勝 島根県環境生活部長

敬称略/50音順 ○印は審査委員長

### 審査経過

- 募集期間  
平成15年7月1日(火)～9月2日(火)
- 募集結果  
応募総数……128件  
応募物件数…124件
- 第1回審査委員会(平成15年5月13日)  
対象物、募集方法、審査日程、審査基準等の検討。
- 第1次審査(平成15年9月16日～10月2日)  
応募書類、写真を基に第2次審査の対象となる31物件を選出。
- 第2回審査委員会(平成15年11月13日)  
選出された31物件・活動について最終審査を行い、10物件を選定。
- 表彰式(平成16年2月6日)  
受賞物件の事業主体、設計者、施工者に対して賞状を、事業主体には副賞として銘板も併せて贈呈。



## 第11回 しまね景観賞第2次審査対象物件一覧

応募部門	物件名称	所在地
まち・みどり部門	上三島フラワーロード 中野農村公園 宍道湖のアシ原再生 ※城山稲荷参道前の通り 横田の重国団地の通り 出雲科学館及びその周辺緑化・修景	邑智郡川本町大字川下 飯石郡三刀屋町中野 平田市 松江市殿町 仁多郡横田町重国 出雲市今市町
土木施設部門	※潮谷川砂防工事 ※ハーモニータウン汐彩親水護岸・遊歩道・植樹帯 ※高瀬川周辺の整備事業 大井谷川砂防環境（橋梁）整備事業	邑智郡大和村大字長藤 安来市汐手が丘 出雲市今市町 鹿足郡柿木村白谷
公共建築物部門	大東保育園 ※斐川町立図書館 ※中山間地域研究センター はくた文化学習館 宍道町緑が丘団地	大原郡大東町大字大東 簸川郡斐川町大字直江町 飯石郡赤来町上来島 能義郡伯太町母里 八束郡宍道町大字佐々布
民間建築物部門	雑賀の長屋住宅 ※一畑電鉄大津町駅 介護老人保健施設「もくもく」 ※松江しんじ湖温泉駅	松江市雑賀町 出雲市大津町 出雲市江田町 松江市中原町
個人住宅部門	高橋邸 上来待の家 ※多根の茅葺き屋根の民家 吉岡邸	安来市宮内町 八束郡宍道町上来待 飯石郡掛合町多根 松江市春日町
工作物・その他部門	八束小学校壁画 クリーン・コミュニティー円通和 県道(母衣町雑賀町線天神町地内)沿い街路灯整備事業 ※美保関の屋号由来板 寺町鼓広場に併設したミニ・ピオトープ グリーンフィンガーガーデン 幸せと愛の鐘	八束郡八束町大字波入 益田市高津町 松江市天神町 八束郡美保関町美保関 松江市寺町 松江市末次町 簸川郡多伎町小田

受付順 ※は受賞物件

## ■表紙のご紹介

### 「灯台（日御碕）」 1964(昭和39)年 油彩・カンヴァス（島根県立美術館蔵）

静かな風景を好み、写生のためよく出歩いたという作者は島根県を訪ねた際、絵の題材に日御碕の灯台を選んだ。県民に馴染みの深いこの場所は、堅固な直線による建造物として描かれているが、純色の上に白色を薄く重ねることでもたらされる微妙な色調がその堅さを和らげ、柔和で静謐な印象にとどめている。そこには海のそばのさみしげな空気まで写しとられているかのごとくだ。油気の少ない絵具を幾度も塗り重ねることで得られるこの画風は、作者が長い模索のうちに独自に築き上げたものであり、カンバスを埋めていく課程で自らの内側に問いかけを重ね、出来上がっていく心象風景でもある。

なお、日御碕灯台は、平成15年4月1日に点灯100周年を迎えた。

### 牛島 憲之（うしじま のりゆき） 明治33(1900)年～平成9(1997)年

熊本市に生まれる。幼い頃から洋画家を志し1922(大正11)年東京美術学校（後の東京芸術大学）岡本三郎教室に学ぶ。帝展、創元会展のほか、荻須高德、小磯良平ら同級生で結成した上杜会展で活躍。1949(昭和24)年創元会を退会し、在野の研究会、立軌会を結成して官展を離れた後は、同会と個展を中心に制作発表を続けた。1965年東京芸術大学教授に就任、後進の育成にも力を注いだ。



